

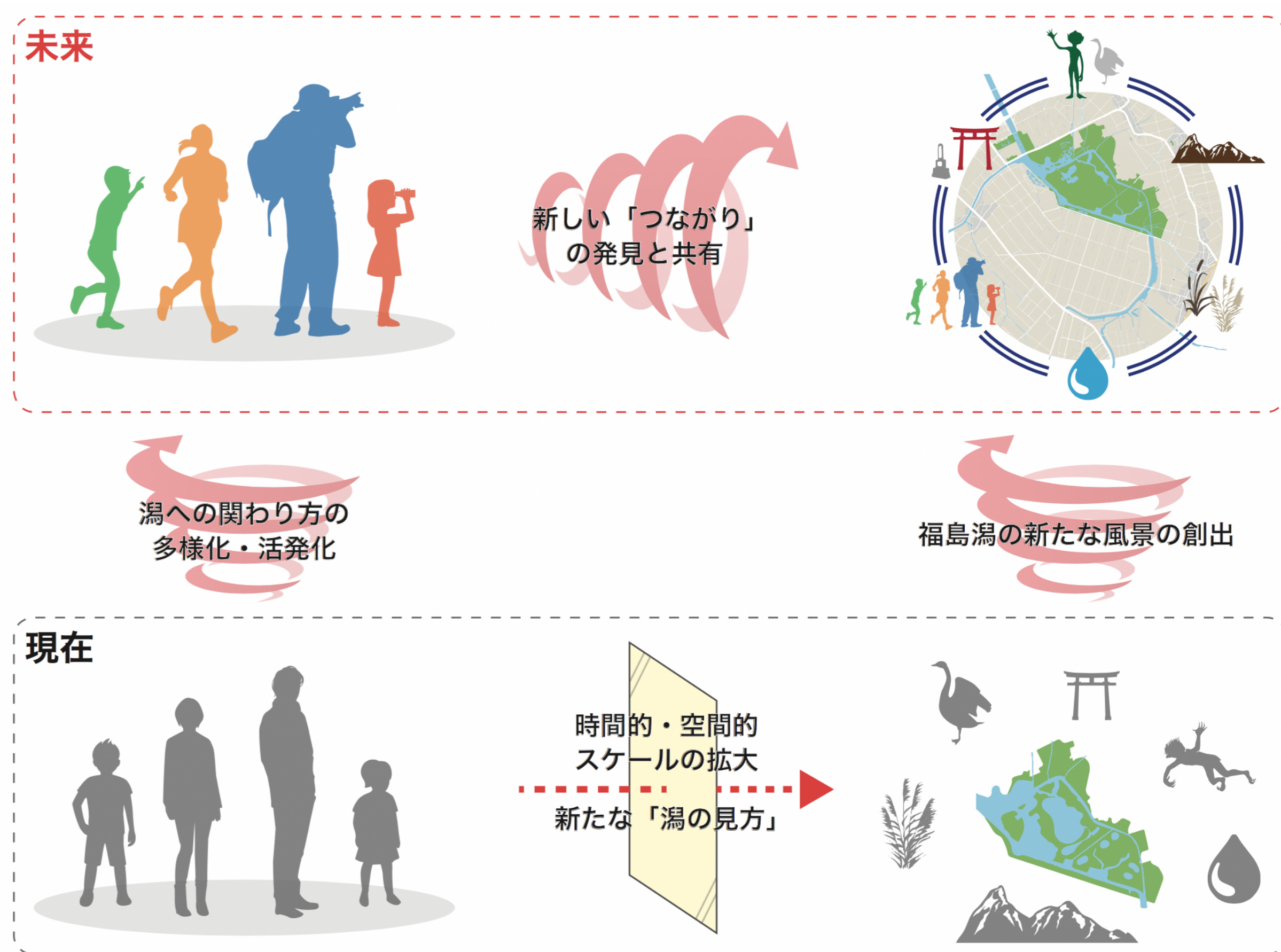
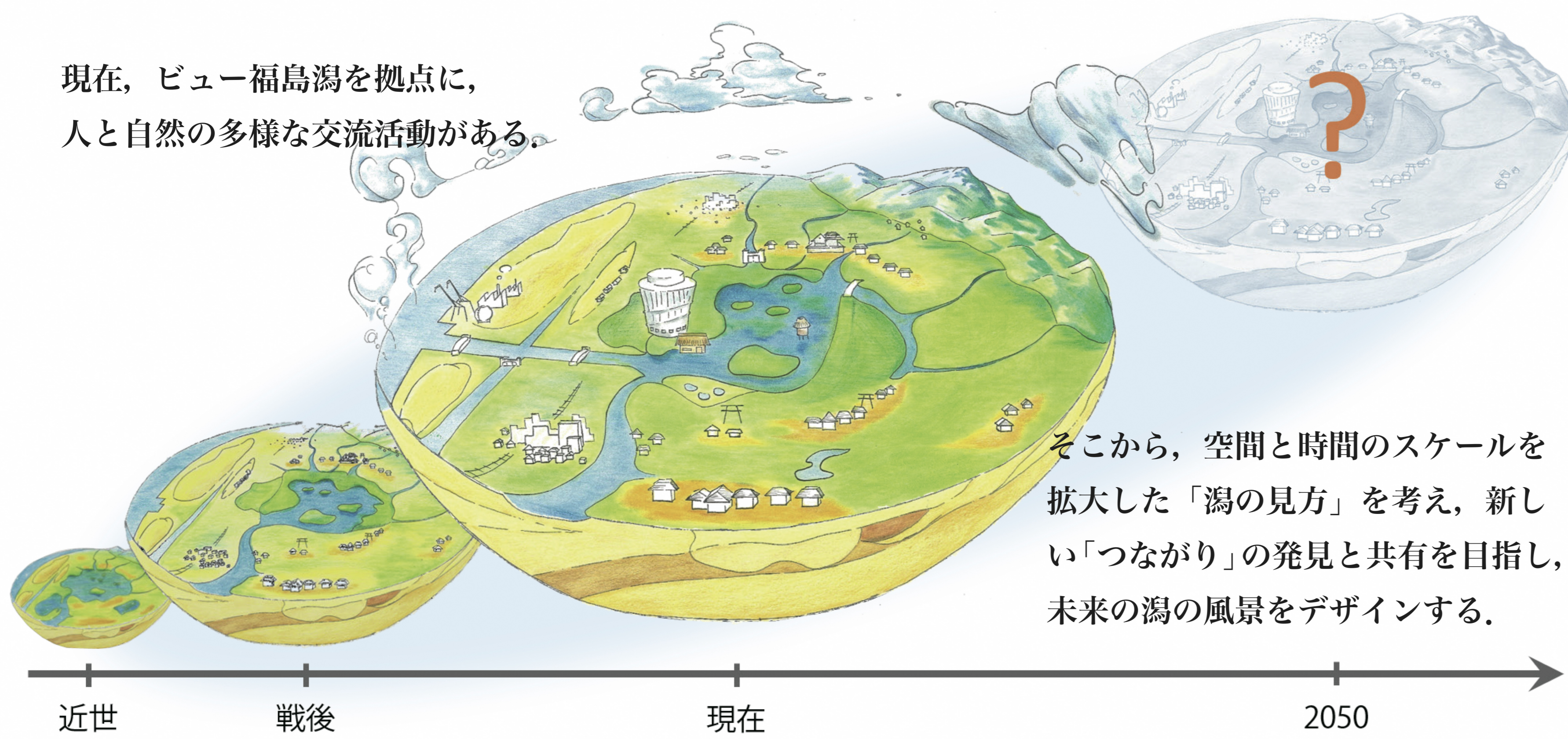
# 福島潟の風景のデザイン

一人と自然のつながりの見方を拡大する

早稲田大学 景観・デザイン研究室  
吉澤広大・小澤広直・渡邊拓巳

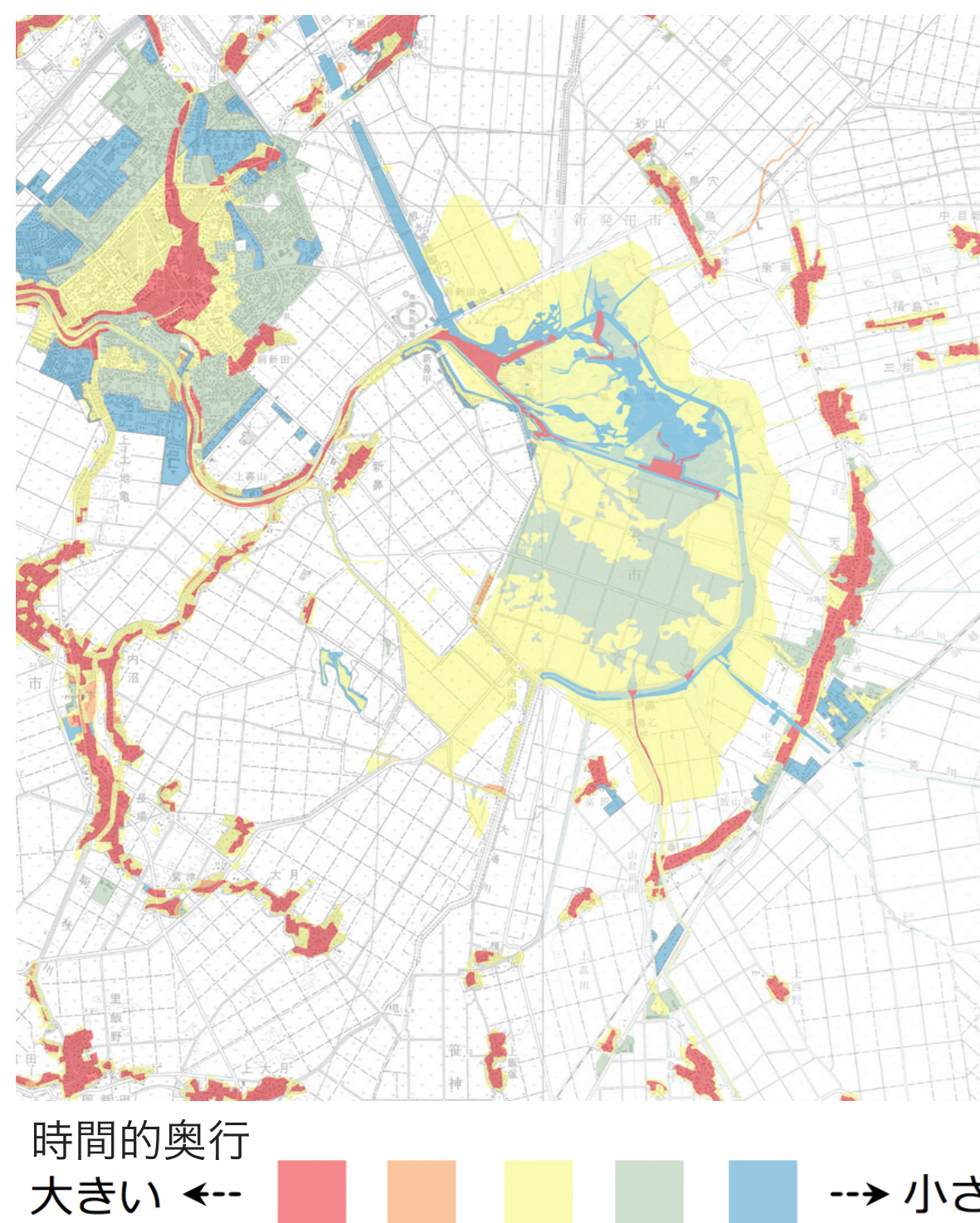
## 提案コンセプト

現在、ビュー福島潟を拠点に、人と自然の多様な交流活動がある。

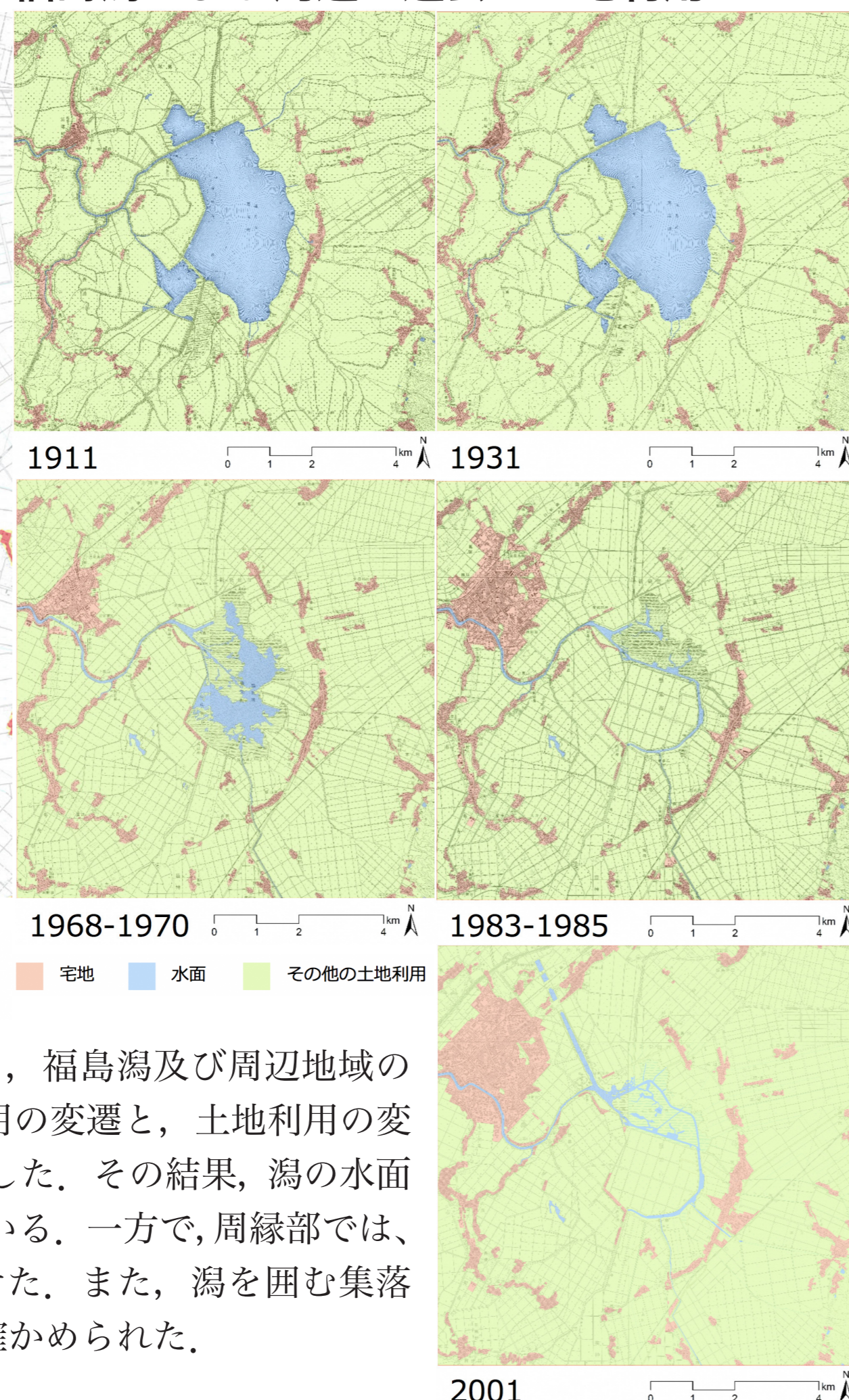


## 時間的・空間的な潟の見方

福島潟及び周辺の土地利用の時間的興行



福島潟および周辺の過去の土地利用

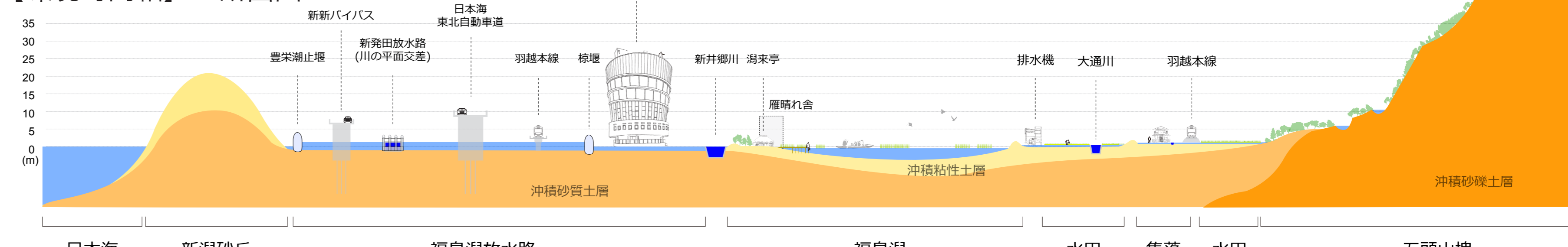


福島潟を貫く【環境時間軸】と【社会時間軸】の2つの軸

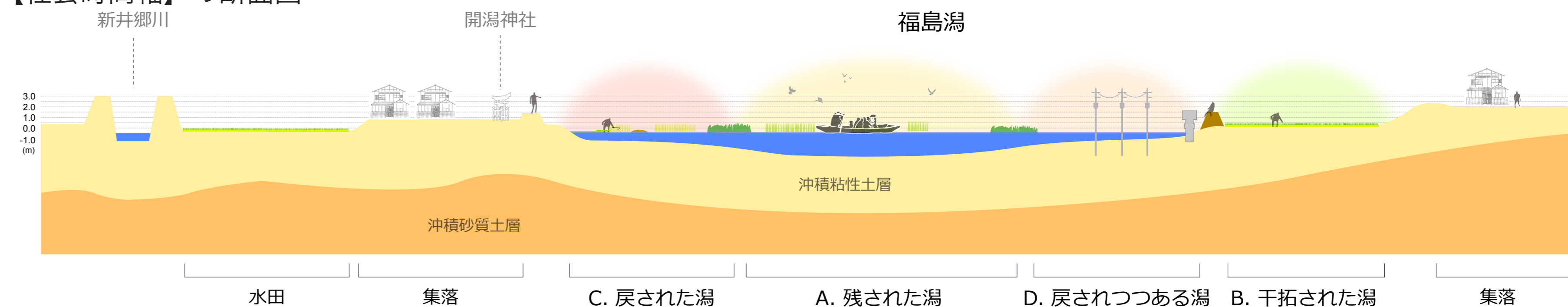


福島潟を中心とする広域な空間構造を、【社会時間軸】と【環境時間軸】の2つの軸で切った断面図から捉える。【社会時間軸】の断面図からは、現在の福島潟とひと暮らしのつながりの変遷、およびそこから現れた異なる4つの潟が確認できる。【環境時間軸】からは五頭山-福島潟-放水路-日本海へとつながる水の流れが浮かび上がり、福島潟の環境を支える排水機場や放水路などのつながりが見えてくる。

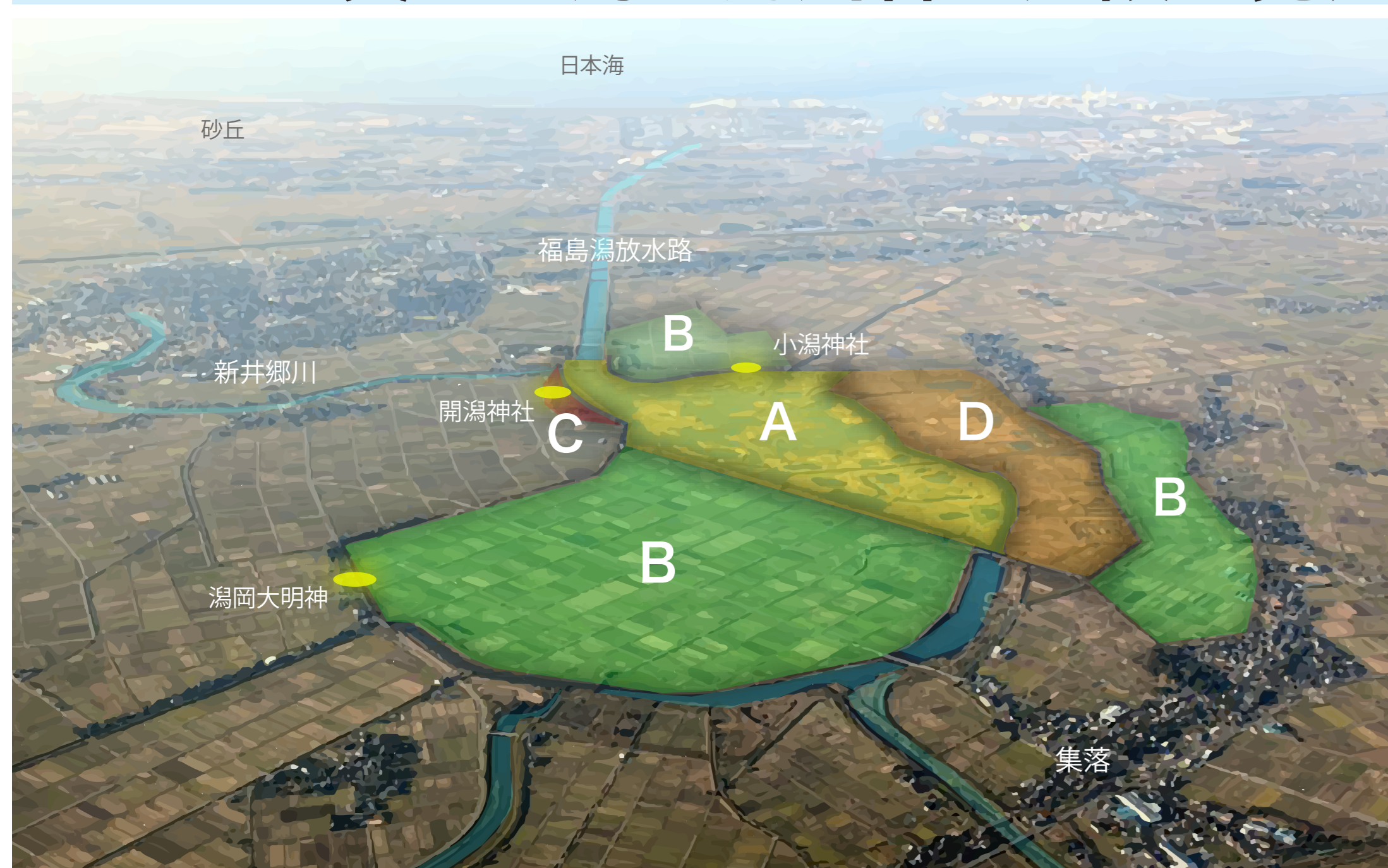
【環境時間軸】の断面図



【社会時間軸】の断面図



## 4つの異なる潟と河川管理施設の見方



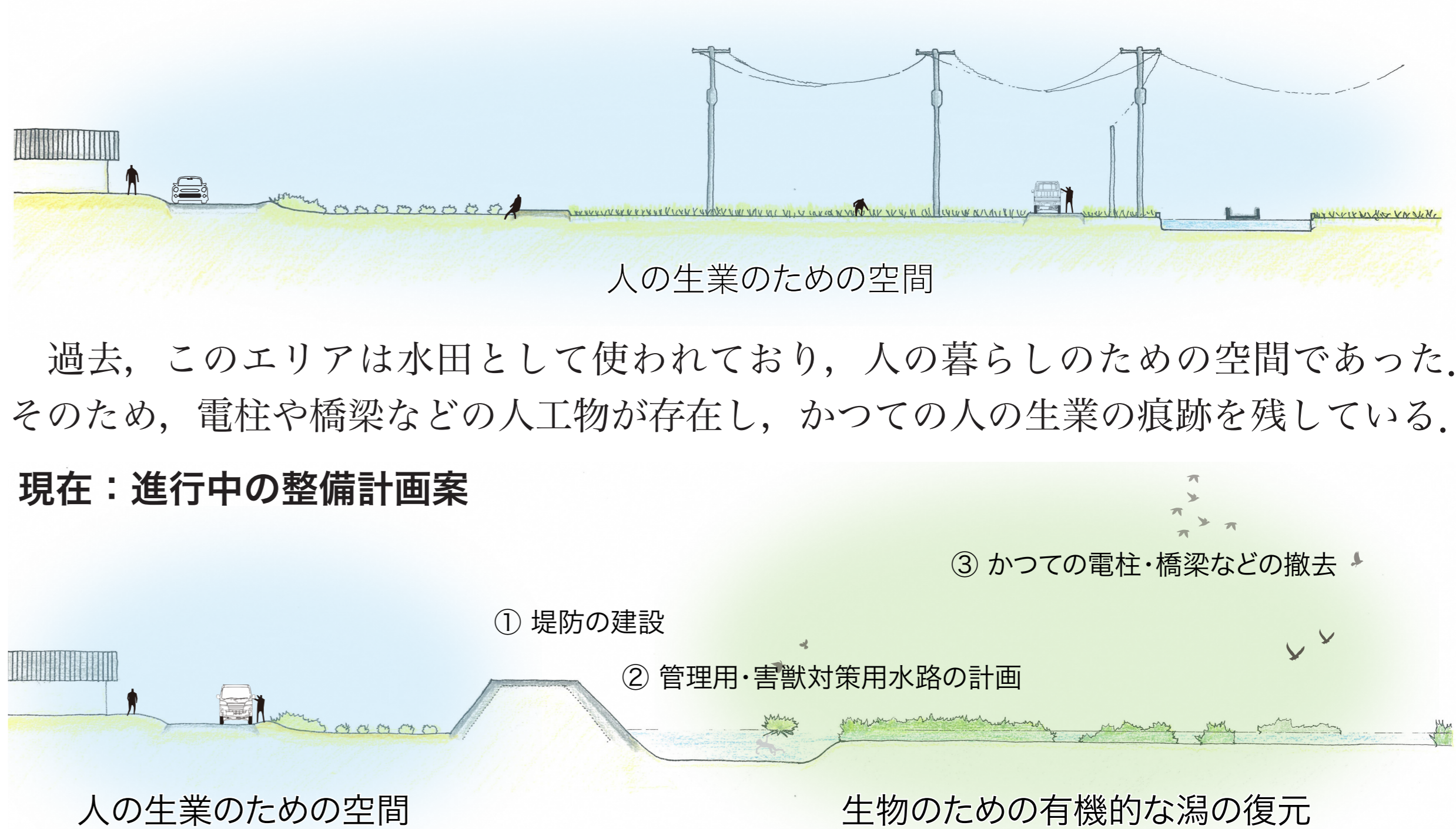
A. 残された潟	B. 干拓された潟	C. 戻された潟	D. 戻されつつある潟	潟周辺の河川管理施設
水の公園福島潟 自然観察園 ビュー福島潟からの眺望	かつての小潟 小沼聖観音菩薩	遊潟広場 遊潟広場に隣接する集落	水田時代の履歴 進行中の整備計画 合成イメージ	新発田川と福島潟放水路の平面交差 椋新田揚排水機場

## 戻されつつある潟のデザイン提案



潟と暮らしのつながりがどのようにして変遷してきたかを潟の風景から読み取ることができるよう、戻されつつある潟には水田時代の記憶を重ねる。

過去：水田時代



戻されつつある潟のデザイン提案

③ 土地の履歴・変遷を考えさせるエレメントを保存する



人と生物の活動圏の重なり

現在、進行中の整備計画では、Aの残された潟と同様に、生物のための有機的な潟の復元が計画されており、それにあたり、治水のための築堤や管理用・害獣対策用の水路が建設されている。また、水田時代から残存する敷地内のポンプへの送電を目的とした電柱などは、ポンプの移設に伴い撤去が予定されている。

既存の計画は生物のための空間が創出されるが、堤防や水路によって人と自然を棲み分け、両者の生活圏を分離するものである。また人の生業の痕跡が消失することで、過去・現在そして未来への「つながり」を風景から読み取ることが困難になる。そこで、我々は、「人と自然のつながりを感じる風景」を戻されつつある潟にデザインすることとした。